

千葉大学校友会 SNS 「Curio」の現状と今後の計画

檜垣 泰彦[†] 桜井 貴文[†] 虎岩 雅明[†] 進藤 啓介[†] 大塚 成男[†]

[†]千葉大学 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

[‡]株式会社トライワープ 〒260-0044 千葉市中央区松波 2-18-8 新葉ビル 2F

E-mail: [†]higaki@tu.chiba-u.ac.jp, [‡]shindo@trywarp.co.jp

あらまし 千葉大学校友会が運営している Curio は卒業生、現役学生、教職員などの千葉大学関係者を対象とした実名開示型 SNS として運用してきた。実名開示型の SNS が一般的になった現在、その方向性の検討が必要となっている。各学部同窓会では、名簿発行や会報の発行をオンライン化しようとする動きが見られる。特に名簿については住所録というよりも、他の常用システムへのリンクを持つ同窓生の名前の一覧としての機能が求められている。これを踏まえ、他のシステムと連携した名簿機能や会報のための同窓会専用スペースの設置、登録申請受付のオンライン化などを計画している。将来的には運営会社によるクラウドとしての構成も検討している。

キーワード SNS, 実名開示, 同窓会活動, クラウド, SaaS

Current status and future plans of ‘Curio’, SNS for Alumni Association, Chiba University

Yasuhiko HIGAKI[†] Takafumi SAKURAI[†] Masaharu TRAIWA[†] Keisuke SHINDO[†] and Shigeo OHTSUKA[†]

[†]Chiba University 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba, 263-8522 Japan

[‡]TRYWARP Inc. 2-18-8-2F Matsunami-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-0044 Japan

E-mail: [†]higaki@tu.chiba-u.ac.jp, [‡]shindo@trywarp.co.jp

Abstract ‘Curio’ is SNS for graduates, students, faculty and staff of Chiba University, with real-name policies operated by Alumni Association. It is necessary to reconsider the strategy because of generalization of the real-name SNS. Some alumni associations are planning to make a Web-based list of members and an online newsletter. Simple member list of alumni names with links to related information are required. The authors plan to make such web-based online member list, members-only web space for newsletter, and web-based admission form. The authors are also considering about the SaaS type cloud style implementation.

Keyword SNS, real-name policy, Alumni Activities, cloud computing, SaaS

1. はじめに

千葉大学校友会が運営している Curio は卒業生のほか、現役学生、教職員を含む千葉大学関係者を対象とした SNS である [1][2]。Curio は大学関係者間の人的ネットワークの維持・拡大を目的としており、実名を隠す習慣が一般的であった 2007 年のスタート当初から実名を開示した運用を行ってきた。その後、日本語版の facebook¹ が公開され急速にそのユーザ数を増やし、実名開示型の SNS が珍しくなくなった現在、その方向性の再検討が必要となってきている。

一方、各同窓会においては、個人情報保護の観点から、これまで行ってきた住所録としての名簿の発行が難しくなってきた。また、一般的に紙媒体として発行してきた冊子のオンライン化が進

んでおり、同窓会が発行する会報についてもオンライン化したいという希望がある。会報の中には同窓会員に限定して知らせたい内容も多く、一般的な Web による公開には向いていない。そのため、各同窓会で会員制のサイトを持つとしようとする動きが出てきている。会員制サイトの運用のためには、ID・パスワードの発行、再発行などが必要であり、同窓会にとっての負担も大きいという問題がある。

2. Curio の現状

2.1. 概要

Curio は 2007 年 1 月にプロトタイプによる仮運用を開始し、その結果を受けて運営体制・システムの変更を行なった後、同年 10 月に千葉大学校友会の SNS として正式運用を開始した。千葉大学校友会とは学部同窓会等の 12 の同窓会を横にまとめ、千葉大学と同窓生との情報交換や連携協力を緊密にするための組織であ

¹ <http://www.facebook.org/>



図1 Curio のページ例

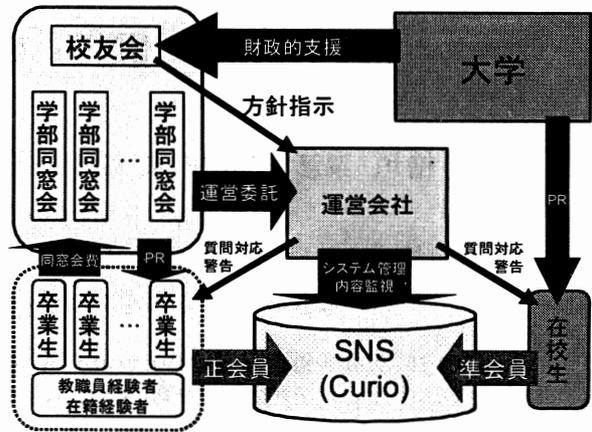


図2 Curio の運用体制

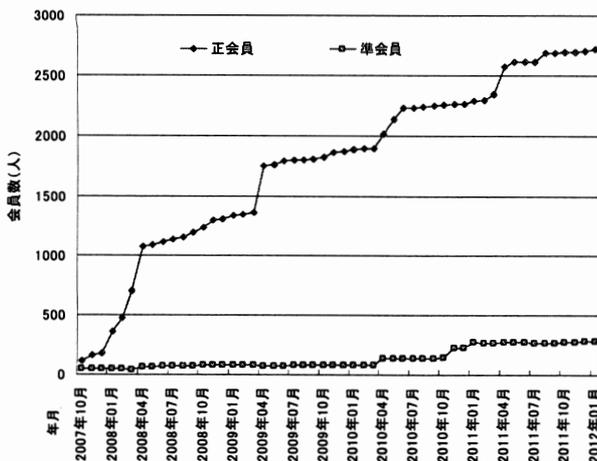


図3 Curio 会員数の推移

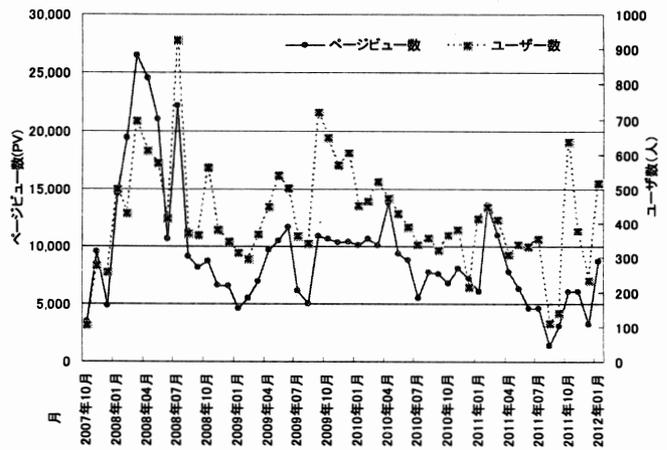


図4 ページビュー数とユニークユーザー数の推移

る。

図1にCurioのページ例を示す。OpenPNEの基本機能であるメッセージ、コミュニティ、日記などの機能が利用できる。プロフィールには所属同窓会の項目も追加してあるが、あくまでも利用者が入会後に各自で設定することとしている。現状ではこれをコミュニティなどのアクセス制限の目的としては利用していない。日記の機能は、通常の日記というよりは、同窓生に向けた近況報告や後述の同窓生間の交流を目的とした話題を書くために使うよう推奨している。

実装はOpenPNE²のVer2系列(以下これをOpenPNE2とする)をベースとし、仮運用の結果必要と判断された機能の追加やセキュリティ強化のためのカスタマイズを行なっている。機能追加・カスタマイズはトライワープがあった。

2.2. 運用体制

図2にCurioの運用体制を示す[1]。仮運用では運用主体を千葉大学としていたが、正式運用ではこれを校友会とした。また、校友会が運営会社(トライワープ)に運営委託する形とした。日常的な質問への対応、警告、システム管理や投稿内容の監視も運営

会社が行なっている。

2.3. 活性化のための工夫

商用SNSではないCurioはユーザの利用頻度をむやみに高める必要はない。必要最小限の活性化のため、月に一度、「四方山話」や「写真館」の紹介という形でユーザにメッセージを送信している。「四方山話」とは毎月1回、Curioの利用を促す目的で、大学に関するテーマを定めて日記欄に感想や思い出を書くように案内し、それらをまとめて閲覧できるようにするものである。また、写真館とは千葉大学に関する写真、特に現在の千葉大学を紹介するための写真掲載を中心としたトピックスの投稿である。

2.4. 会員数

Curioは2007年10月から運用を開始し、2012年1月現在、会員数は約3000人である。あくまでも卒業を利用者の中心として位置付けるため、正会員(卒業生)と準会員(在校生)の区分を設けている。現役学生は準会員とし、当初メッセージや日記の機能が使えないなどの制限を設けていたが、現在ではかなり緩和され正会員の権限に近くなっている。図3にサービス開始から現在までの会員数の推移を示す。毎年卒業式のとき会場にて説明を行なうと同時に申込用紙を配布し正会員を募っているため、多数の新卒業生が入会しており、年度切り替わりの時期に会員数が増加して

² <http://www.openpne.jp/>

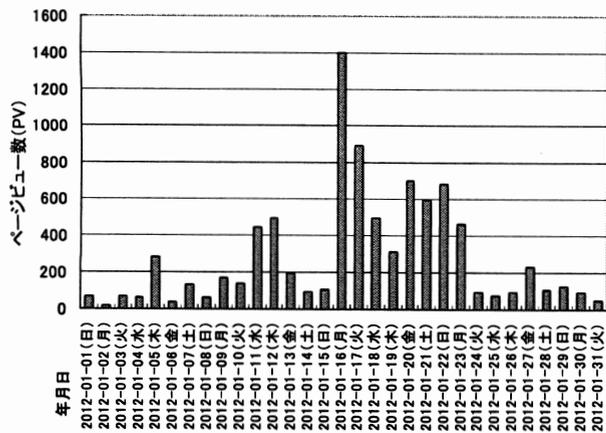


図5 2012年1月のページビュー数詳細

いる。準会員向けのサービスとしては、卒業生と学生の就職情報の交流を目指してコミュニティを設けているが、十分活用されているとはいいがたいのが現状である。

2.5. ページビューとユニークユーザ数

図4に運用開始から最近までの月ごとのページビュー数とユニークユーザ数の推移を示す。運用開始後1年間はページビュー数で25,000を超える月もあった。その後は月ごとの差はあるものの、10,000程度を維持していたが最近では5,000を切る月も出てきている。ユニークユーザ数も上下はあるものの実ユーザ数400人程度の周辺を行き来している。Curioはその目的からも、日常的に頻繁にアクセスするタイプのシステムではないといえるが、同窓生と連絡をとる等、必要なときに利用できる状態にあるべきである。そのためにも、頻繁でなくとも忘れてしまわない程度の一定期間ごとに、ある程度のアクセスが望まれる。

図5に2012年1月の各日のページビュー数の詳細を示す。1/16(月)にピークが見られるが、この日は「四方山話」のメッセージ送信した日である。この月は新しくなった図書館について、日記を促すだけでなく、写真館への写真の掲載も行なったため、特に効果が大きかったとみられる。この月は1/19(木)にも写真館に写真を掲載した旨メッセージ送信しており、週末にかけてアクセスが多くなっている。このように、月に1回程度の割合で定期的を送っているこれらのメッセージは、会員がCurioにアクセスするきっかけとして有効であることが確認できる。

3. 同窓会の動向

千葉大学は旧制諸学校を包括して新制の総合大学として発足した経緯から、旧制諸学校時代も含めた卒業生の状況を把握しているのは各学部等同窓会である。9つの学部同窓会を含む12の同窓会が学内に存在する。その規模や事情は同窓会によって大きく異なっている。

3.1. 名簿発行

同窓会の重要な役割は、会員の管理である。従来は氏名のほか、住所、電話番号、職業などを管理し、図6のような冊子の同窓会名簿を発行してきた。2005年4月の「個人情報保護に関する法

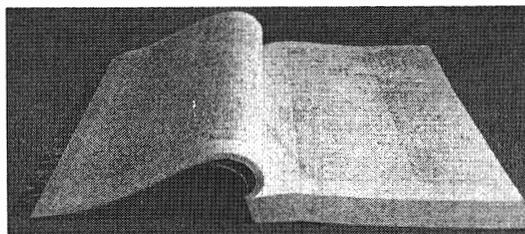


図6 同窓会名簿(冊子)の例

[名簿top] [top]

千葉大学工学同窓会名簿【デモ版】

第IV部会(電気工学科・電子工学科同窓会)

千葉大学工学部

電気工学科 (S47大電専) (60名)

浅見 勝男	足立 敦	井川 正好	池田 岩雄	伊沢 重光
石黒 創	石野 良吉	依田 康男	井原 謙	海野 邦彦
江崎 俊光	大関 久吉	大田 義孝	大津 英人	小嶋 卓雄
片岡 敏哉	金森 明彦	鹿野 龍之	河内 務	河内 翠葉
川上 美南	岸田 良子	北岡 竜一	下田 由太郎	小村 正志
今野 克哉	佐久間 茂男	堀沢 由実	高橋 隆治	下村 金之助
Simpson Abraham	菅原 竜太	高岡 貴士	高橋 隆治	田尻 啓助
田所 嘉晴	谷 泰三	堀 寛彦	寺尾 徳成	鳥屋 敏男
土居 秀光	中塚 光彦	中風 俊彦	長坂 哲美	野島 英明
野呂 英英	栗山 浩之	榎岡 貞行	福原 公男	福原 正明
松尾 幹彦	三木 英博	南 昭二	三橋 成良	宮川 良二
三輪 昌紗	村木 俊之	村山 弓月	山元 崇史	吉澤 崇弘

※この名簿はデモ版です。

※期間中のデータはごまかし、個人情報を削除してあります。掲載の氏名はすべて架空のものです。

※工学部同窓会にご協力頂き、感謝しております。

curio-memo-kougaku-demo Ver.1.00 (2011-11-10) by higa@kaiyaku-u.ac.jp

図7 Curioへの同窓会名簿の実装イメージ

律」の全面施行以降、このような詳細な個人情報を管理し、名簿として発行していくことが難しくなった。各同窓会では冊子としての名簿の発行を取りやめる傾向にある。それに伴って、冊子としての名簿の代わりとなる相互連絡の手段が求められている。

3.2. 会員制サイト

一般的に紙媒体として発行してきた冊子のオンライン化が進んでおり、同窓会が発行する会報についてもオンライン化したいという希望が出てきている。会報の中には同窓会員に限定して知らせたい内容も多く、一般的なWebによる公開は向いていない。そのため、各同窓会で会員制のサイトを持つとする動きがある。会員制サイトの運用のためには、ID・パスワードの発行、再発行などが必要であり、同窓会にとっての負担も大きいという問題がある。また、より積極的な情報伝達手段である電子メールを利用した、メールマガジンの希望もある。

4. 今後の計画

4.1. 名簿機能の実装

冊子としての名簿発行が難しくなった各同窓会は、その代替手段を求めている。Curioではこれに対応するため、各同窓会が管理している卒業生のリストをオンライン化することを考えている。図7にCurioへの実装イメージを示す。所属と氏名の一覧が基本であり、旧来の冊子としての名簿に記載していた住所や電話番号は扱わず、連絡の取れる関連情報へのリンクのみとする。図中では、アンカー付の名前がこれらの関連情報へのリンクを持つ卒業生である。旧制諸学校時代からの歴史のある同窓会においては、旧制学校名などの所属の管理が複雑な場合もあり、一部同窓会毎の

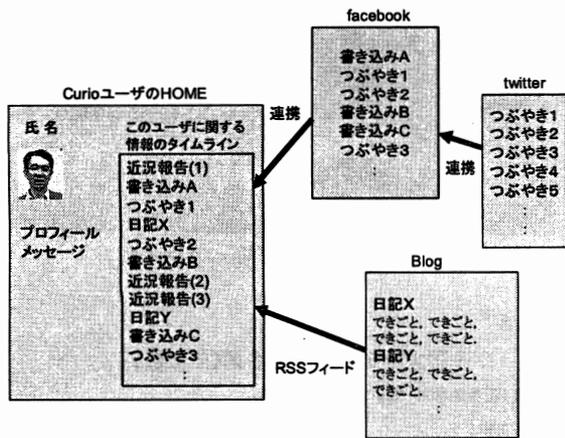


図 8 他のシステムとの連携イメージ

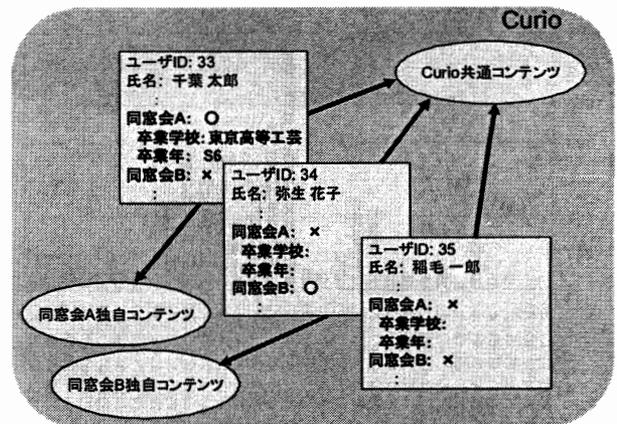


図 9 ユーザ属性追加による同窓会専用スペースの実装

個別のカスタマイズが必要となる可能性がある。

4.2. 他のシステムとの連携

Curio は OpenPNE ベースであるため、国内で用いられている多くの SNS 同様に、それ自体で日記の機能を持っている。しかし、Curio で書いた日記は Curio ユーザしか読むことができず、また、多くのユーザは自分の Blog や twitter³, facebook などを利用しており、そちらで日記を書いている。OpenPNE2 の標準機能として RSS を利用して予め登録した自分の Blog から記事の概要を取り込む機能は持っている。これに加え、twitter や facebook に書き込んだ内容を各ユーザの HOME に掲載できる連携機能を実装予定である。図 8 に連携イメージを示す。「近況報告」は OpenPNE2 が持つ日記の機能であり、Curio 中で書かれたものである。Blog からの RSS による連携は現在も実現されている。これらと facebook や twitter からの情報をこの図に示すように、そのユーザに関する情報のタイムラインとしてまとめる予定である。

4.3. 同窓会専用スペース

既に述べたように、各同窓会は会報などのための独自コンテンツのためのスペースとして同窓会員のみがアクセスできる専用のスペースを求めている。現在の Curio のプロフィール中の所属同窓会表記は自己申告であり、これを認証用には使えない。また、各コミュニティはコミュニティ参加者のみにアクセスを制限可能であるが、この機能を使って制限をかけるには、コミュニティ参加時に何らかの方法で所属同窓会の確認が必要になる。

厳密に同窓会専用スペースを設けるためには、図 9 に示すように、Curio の会員属性として、そのような同窓会の会員であることを明示する属性の追加が必要となる。その属性情報をもとに、同窓会専用スペースへのアクセスを許可する。図 9 ではユーザの属性として、同窓会 A と同窓会 B の所属に関するフラグが追加されている。ユーザ ID 33 のユーザは同窓会 A に属しており、同窓会 A の独自コンテンツにアクセスできる。なおこの属性によらず、全ユーザは Curio 共通コンテンツにアクセスできる。同窓会専用スペース

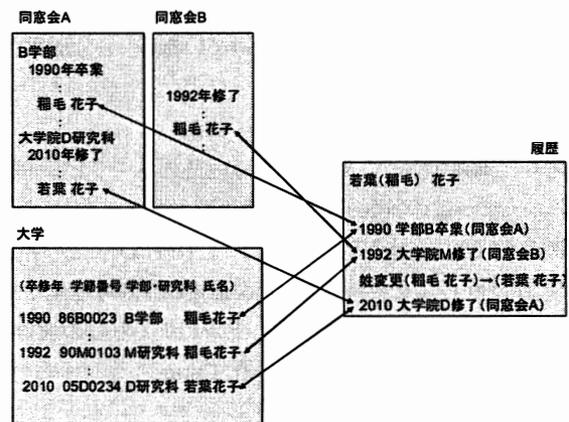


図 10 難しい名寄せの例

や会員属性の仕様については、会報の掲載など共通性の高いものもあるが、活動内容に違いにより、個別カスタマイズが必要な可能性がある。図 9 の例では同窓会 A は独自の属性として、卒業学校と卒業年を必要としている。

4.4. 名寄せ問題

新設した同窓会専用スペースを厳密に運用するためには、そのアクセスを管理する属性フラグを正確に設定する必要がある。各同窓会に所属する会員の情報は各同窓会が所有しており、情報が電子化された後の最近の卒業生については、大学がその情報を効率的に利用できる状態で所持している。また、卒業生によっては複数の同窓会に属している場合もある。これらの情報から正確に図 9 の状態を実現するためには、複数の情報源の卒業生情報を一本化するいわゆる“名寄せ”の問題が存在する。

図 10 に名寄せが難しい例を示す。B 学部と D 研究科の卒業生は同窓会 A 所属となる。M 研究科の卒業生は同窓会 B に所属する。大学が持っている卒業生の情報は入学年毎に登録され、学籍番号で管理されるが、この例のように複数の学部・研究科に入学した場合、それぞれ別に登録され、これらが同一人物であるという情報は記録されていない。この例の卒業生は 1990 年に学部 B を卒業し同窓会 A に属した。その後、研究科 M に進学・卒業し同窓会 B に属した。就職後に姓が変更となり、その後 D 研究科に

³ <http://twitter.com/>

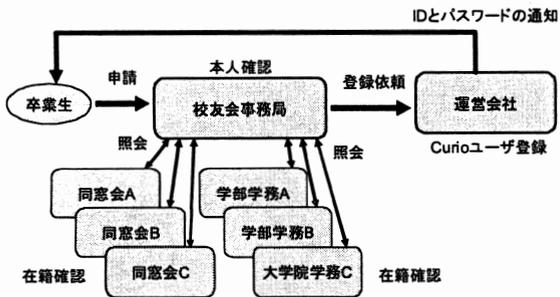


図 11 Curio ユーザ登録処理の流れ(正会員)

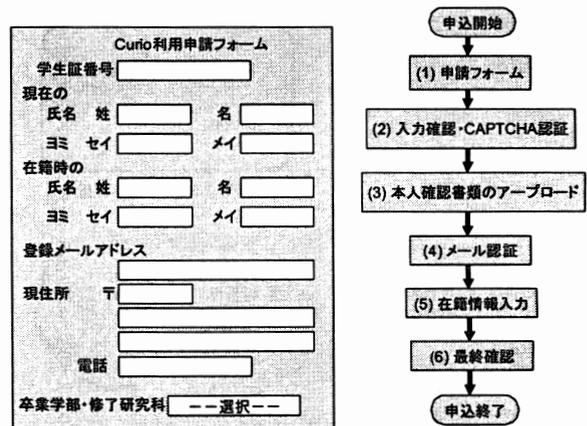


図 12 利用申請の受付

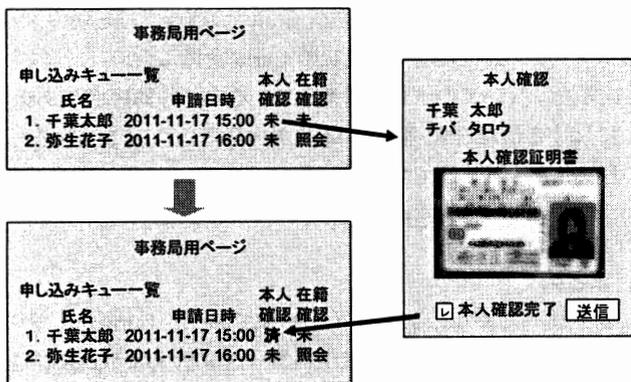


図 13 校友会事務局の処理ページ

入学し 2010 年に修了した。ある程度の名寄せは機械的に可能であるが、このように氏名が変更になっている場合もあり、その情報を正しく把握しているのは最終的には本人のみであるといえる。

4.5. 登録申請のオンライン化と処理の管理

4.5.1. 現状

悪意を持った部外者が入り込むのを防止するため、現状の Curio でユーザの利用申請は本人確認書類の提出を求めており、ファックスや郵送で校友会が受け付け処理している。処理の流れは図 11 に示す通りである。卒業生は申込用紙に必要事項を記入し、自分を証明できる書類といっしょに校友会事務局に郵送又はファックスで送付する。校友会事務局は書類にて本人確認の後、申込用紙から電子データとして起こし、電子メールで各同窓会や学部・大学院の学務に在籍していたかを照会する。確認後、運営会社へ登録依頼を電子メールにて行なう。運営会社は Curio にユーザ登録すると同時に、登録情報を申込者へ通知する。

申込者からは郵送することに対し、手間がかかる、時間がかかる、送料がかかるなどの不満が寄せられている。また、申請を処理する校友会事務局では、手書きの書類から電子メールアドレスを起こすときの精度が問題となっている。本人確認書類の提出を求めているのは、部外者が入り込むのを防ぐためであり、このような手順の変更はできない。

このような状況を改善するため、現状と同じ流れ(図 11)で、現

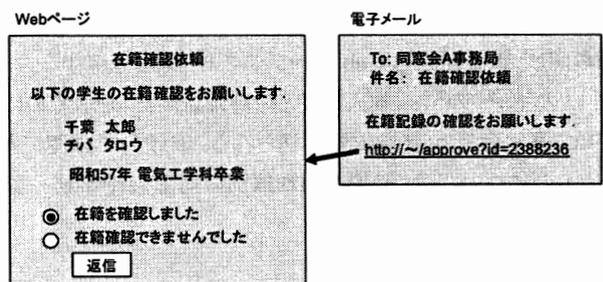


図 14 同窓会・学務における処理

在よりも効率よく処理でき、要望の多いオンライン受付を実現するため、Web ベースの受付ページと管理システムの導入を計画している。

4.5.2. 申請受付ページ

図 12 に利用申請受付のフォームと処理の流れを示す。必要事項を申請フォームに入力(1)後、入力内容を表示して確認を行なうと同時に、機械登録防止のための CAPTCHA 認証(2)を行なう。その後、デジカメなどで撮影した JPEG などによる画像のアップロード(3)の後、メールアドレスに認証コード付きメールを送ることでメール認証(4)を行なう。在籍情報入力(5)では整備された情報を持つ同窓会では、卒業生のデータベースを用意しておき、それを検索して候補を示し選択を促す。それ以外では、学科、卒業年などの情報を入力してもらう。入力した情報の最終確認(6)で申込終了となり申込が受け付けられる。

4.5.3. 校友会事務局の処理ページ

申請を受け付けると、校友会事務局用の処理ページにキューとして表示される(図 13)。キューから申請を選び本人確認のページを表示し、確認書類を表示して本人確認を行なう。

在籍確認は関係同窓会か学務に依頼する。申請受付時にデータベースとの照合が終わり、卒業生の特定が出来ている場合は、在籍確認は省略できる。そうでない場合は、このページから在籍確認を開き、校友会事務局が適切な依頼先を選んで依頼する。

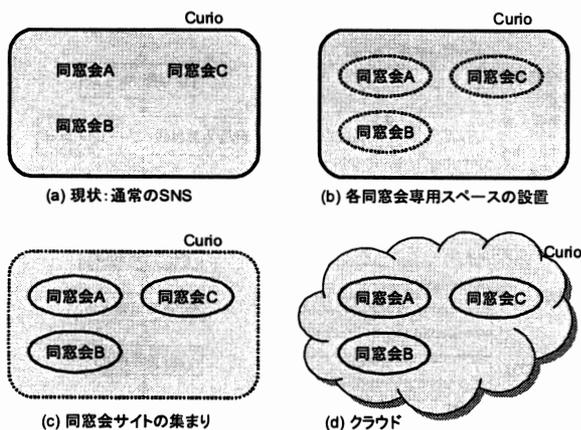


図 15 Curio の概念

4.5.4. 同窓会・学務における処理

同窓会・学務は校友会事務局から図 14 に示すように認証付 Web ページへのリンクを含む電子メールで依頼をうける。依頼を受けた同窓会・学務はリンクから Web ページを開き、具体的依頼内容を参照し、調査結果を Web ページのフォームで返信する。

図 13 のキューのうち、本人確認と在籍確認が終わったものについては、運営会社へ登録依頼が送られる。依頼先で確認できなかったものについては、必要であれば別の同窓会や学務へ依頼を行なう。

5. クラウド化の構想

これまでの議論では Curio の中に、特別な機能が必要な同窓会について、それを実装していくというアプローチをとった(図 15(b))。この場合、Curio は校友会が運営しており、同窓会独自機能の実装については、それを必要とする同窓会が負担して実装すべき部分である。開発費用的なことを考えると、切り分けが難しい。

そこで、発想を転換する。つまり、Curio の中に同窓会固有のスペースを設けるのではなく、同窓会の会員制サイトの集まりを Curio と定義するのである(図 15(c))。各同窓会サイトはそれぞれの同窓会の費用で開発を行なう。それを取りまとめる部分のインタフェースを定義しておき、それも実装することでそれらの同窓会サイトの集まりとして Curio を実現する。

同窓会の運用は基本的に大学組織とは別であり、Curio も学外に構築されている。また、個別のカスタマイズが必要であるとしても共通部分も多く、個別カスタマイズ部分を複数の同窓会で共有できる可能性もある。これらのことから、さらに発想を進めて Curio を SaaS タイプのクラウドとして構成することも考えられる(図 15(d))。予めサービスとして用意された Curio を校友会や各同窓会がクラウド運営業者に利用料金を支払い利用する。システムの維持・管理は運営業者がおこなうため、校友会や各同窓会は運用に必要な費用の見積が容易となる。

準会員である学生との関係も加えた構想の詳細を図 16 に示す。同窓会 A~E はプロフィール中にその同窓会専用の属性を設け、専用スペースを利用する同窓会であるが、同窓会 X, Y は、その

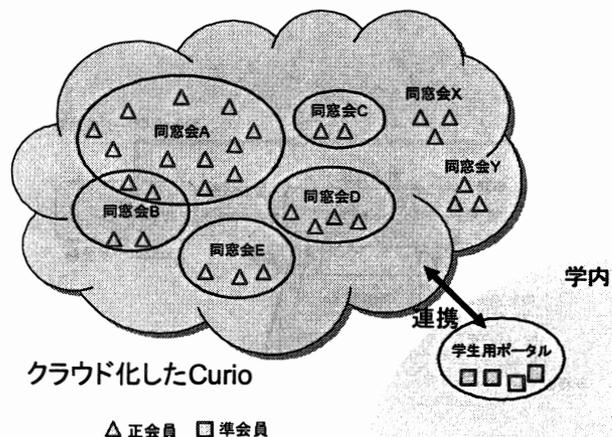


図 16 さらに進んだ Curio のあり方(構想)

ような機能を利用しない、通常の Curio の機能だけを利用する同窓会である。これら X, Y は現状の Curio 会員に近い。

卒業生についての情報を管理しているのが各同窓会であり、学生に関する情報を管理しているのが大学であることを考えると、この図のように準会員である学生については、Curio とは別の学内の学生用ポータルと連携する形での構成が好ましいといえる。

6. まとめ

以上述べたように、実名開示が特徴であった Curio は、その方向性を再検討した結果、同窓生のポータルというようなものへと移行することを考えている。具体的には、各同窓会の動向を受けて、関連情報へのリンクを持った名前の一覧としての名簿の実装や、会報掲載に必要な同窓会専用スペースの設置を計画している。これは、同窓会という概念が明確に実装されていない現状に対し、各同窓会が必要とする機能を実装していくという流れであるが、発想を変えると、同窓会の会員制サイトの集まりが Curio であるという見方も可能であり、さらにそれを発展させると Curio のクラウド化という発想にも行き着いた。

今後の計画として述べた中には構想も含まれている。ここで述べたすべての機能を実装するというわけではない。今後更に吟味し、これらの中から必要性が高く現実的なものを選んで実際に実装していく予定である。ここでは可能性として特殊な例も取り上げたが、まれな例にこだわりすぎず、最も一般的なケースで効率的に利用できるように設計することが重要である。

謝辞 この研究の一部は、科学研究費助成事業の助成(基盤 C 23500305)を受けて行なわれている。

文 献

- [1] 大塚成男, 檜垣泰彦, 桜井貴文, 市川智一, 吉野貴之: D-9-29 千葉大学校友会 SNS「Curio」の構築, 電子情報通信学会総合大会講演論文集, 2009 年_情報・システム(1), p.143 (2009.3)
- [2] 大塚成男, 檜垣泰彦, 桜井貴文, 進藤啓介: 実名開示を重視した SNS (千葉大学校友会 SNS) の実情と課題, 2010 PC カンファレンス, e-ラーニング (2010.8)